

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけ、自ら考え、判断し、表現することができる子どもを育成するための指導の充実  
○学習習慣を身につけさせ、根気強く課題に取り組むことができる子どもを育成するための指導方法の工夫

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	石田	早人
山中 史江		教頭	建島	真紀
		事務主任	山中	史江
		事務主任	宮本	和美

校長

石田 早人 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○前学年で身につけるべき基礎的基本的な知識・技能がほぼ身につけている児童が多い。 ●定着度の格差があったり、時間がたつと忘れていた学習内容があったりする。	・基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・タブレットの主な使い方を理解し、ルールを守って使用することができる。	・既習内容の復習を行い、まちがった原因を考え、くりかえし学習することで、基礎的な言語能力や計算力を身につけさせる。 ・キーワード、キーセンテンス等に線をひいて何が書かれているかを的確に捉えられるようにする。 ・ルールを提示したり、タブレットでの学び方を伝えたりする。	・タブレットのドリルアプリを積極的に活用する。 ・ICTの効果的な使い方をさらに追求し、長文の読み取りが不十分である児童に、タブレット・デジタル教科書を活用した読み取りの指導や繰り返しの学習を継続していく。	○徐々にタブレットの使用機会が増え児童はその使用に慣れてきた。授業のまとめや復習にタブレットのドリルアプリを活用したことは、基礎的な言語能力や計算力の向上に役立った。 ●今の学習に既習の知識を十分に活用できていない児童がいる。	・ミライシード等、タブレットアプリの効果的な使い方を更に研修し、ドリルアプリは家庭学習で利用する等、それぞれのアプリを有効に活用できる方法を考えていく。 ・タブレットを用いて反復学習を行い、既習の知識を活用できるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○筋道を立て理由を説明しながら、少しずつ発表できるようになってきている。短い言葉だと積極的に表現する。 ●人前で自分の考えを伝えたり作文を読んだりすることに苦手意識をもつ児童がいる。	・目的に応じて、根拠や理由をあげて自分の考えや意見を書いたり話したりすることができる。 ・目的に応じてタブレットやホワイトボードを効果的に使い、思考を整理したり、協働的に学んだりできる。	・思考の時間を十分確保し、必ず、根拠や理由をあげて発表する機会を設ける。また深い学びにつながる発問を工夫する。 ・身につけた知識等を表現するために、書く活動を多く取り入れる。 ・ペアやグループで互いにインタビューや討論をするなどの活動の場を設定する。	・メタ文字をまとめ学習に役立てることで、根拠や理由を挙げて自分の意見を言おうとする児童が増えたので継続していく。 ・コロナの感染状況を見ながら、行事や全校集会活動で児童が自らの意見を発表する場を工夫し設定していく。 ・深い学びにつながるよう一問一答にならない発問を継続して考えていく。	○根拠や理由を明らかにした発表ができるようになってきた。思考の整理やまとめ学習にタブレットを活用できた。 ○朝の会でスピーチを入れたり、ペアで相談したりすることで、人前で話すことに慣れてきた。 ●自分の考えを順序よくまとめて書く活動には課題がある。	・国語の長文読解が苦手な児童が多いので、読む学習を増やす。 ・学力向上のプリント等を使って題意に沿った解答を書く問題に慣れる。 ・タブレットやデジタル教科書を活用した読み取り指導や繰り返しの学習をしていく。 ・タブレットを効果的に使った協働的な学びについて継続して取り組んでいく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題等の決められた課題にまじめに取り組む、最後までやりとげようとする。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服をしたりすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・タブレットを自主学習に役立てられるようにする。 ・自ら本に親しみ、進んで読書ができるようになる。	・学習のめあてをはっきりとつかませ、授業の最後には1時間のまとめと振り返りを行い、次の学習への意欲づけをする。 ・自主学習のあり方を考え、内容についてノート指導したり、家庭でのタブレットの使い方の指導を行ったりする。 ・学級文庫の充実を図り、読書習慣を身につけられるように工夫する。	・できるだけ振り返りの時間を確保できるよう授業構成を考える。 ・全校でタブレットを活用した宿題を出したり、自主学習に取り組んだりし、取り組み方に深まりが見られ始めたので、さらに個々に応じて適切に自主学習ができるよう支援や声かけをしていく。 ・おすすめの本コーナーや学級文庫の充実にか力をいれることにより読書量が増えてきた。さらに隙間時間を利用した読書を推奨していく。	○めあてを明確にし、まとめと振り返りを行うことで学習意欲を継続できた。 ○高学年では、自主学習を毎日行うことにより、何を学ぶのかを自分で考えて取り組むようになった。 ○学級文庫や図書室の充実により、読書量が増えた。隙間時間に進んで読書をする児童が増えた。 ●児童(保護者)アンケートでは、「自分で(お子さんは)進んで勉強している」と答えた割合は低い。	・全校で個々に応じた自主学習を進め、主体的な学びを全学年で伸ばしていく。 ・タブレットを自主学習に活用する。 ・読書の幅が広がるように、図書館サポーターの力も得て、児童に働きかけていく。 ・国語科においては、教科書の単元ごとに関連する本の並行読書をすすめていく。

令和3年度 学力向上ロードマップ

